

学校の図書室で『ゲン』を読む小学6年生



ゲンとともに 平和をつくる



『はだしのゲン』第7巻(汐文社)より



40年読み継がれる少年漫画

はだしのゲン

中沢啓治が被爆体験をもとに描いた自伝的漫画。広島市舟入本町に住む国民学校(小学校)2年生の中岡元が主人公。原爆で家族を失った元が、貧困や差別に負けずたくましく生きる。沖縄戦の集団自決や天皇の戦争責任、中国での日本軍の蛮行、戦後のレッドパージも描かれる。

1973年に『週刊少年ジャンプ』(集英社)で連載開始、75年に汐文社から単行本が刊行された。発行部数は650万部超。最終10巻は中学を卒業した元が東京に行くシーンで終わる。中沢さんは2012年に亡くなるまで続編を準備していた。

どう見る? 閲覧制限

日本図書館協会 西河内 さん

昨年から県や市議会に対して、学校図書室から『はだしのゲン』の撤去を求める請願、陳情が相次いでいます。こうした動きの発端となった高知県松江市では、請願は不採択だったものの、同市教育委員会が小中学校に閲覧制限を求め全校が応じました。いわば自主規制です。

日本図書館協会「図書館の自由委員会」委員長で、滋賀県多賀町立図書館館長の西河内靖泰さんは「特定の本を撤去することは、図書館の原則からしてあり得ません」と指摘します。

図書館の使命は知る権利の保障

同協会は全国の図書館が加盟する公益社団法人。1957年の「図書館の自由に関する宣言」で、図書館の基本的任務は「国民の知る自由(知る権利)を保障すること」と決めました。「人類の知的生産物を収集し未来につなげるのが図書館の役割。本の善し悪しを判断するのは未来の読者にしてあげることが図書館の使命です」と断言。



松江市教委は「描写が残酷」として閲覧制限を決めました。ゲンが普及し始めた1980年代から、同じ理由で否定的な声もありました。作者の中沢啓治さんと生前、交流のあった西河内さんは「読者が恐怖感を感じてくれないのは、原爆がもたらしたものは伝わらない」と聞いていました。

請願や陳情を提出するのはネット右翼や右派勢力ですが、そもそもゲンを普及したのは、思想信条に関係なく原爆の恐ろしさをゲンを通して実感した人々です。「教委や学校現場は中立、を勘違いしているのではないか。どんなイデオロギーにも、いかなる立場にも一方的に屈してはならないのが中立。妨害に耐えながら、原則を守り通すのが図書館の使命です」。

とことん現実を描いた

西河内さんは被爆二世です。20代で肝臓病を発症、全国肝臓病患者連合会の会長も務めます。連載当時、ゲンの単行本化の予定はありませんでした。このまま埋もれていくのかと、被爆二世や被爆した教師が運動し単行本化が決まりました。教師が普及にとりくんだこともあり、学校図書室に置かれています。ゲンの魅力について、少年漫画の本質ともいえる「下品。な言葉遣いを挙げます。「子どもは下品なものに引かれる。下品とはいっても、それが現実だったんです。中沢さんは被爆の描写をはじめ、とことん現実を描いた」と西河内さん。

連載当時、漫画という表現に対する社会的評価は低かったそうです。「漫画とはいえ妥協しない姿勢を中沢さんは貫いた。子どもは手抜きを見抜きます。妥協を許さない作風が40年経っても色褪せない魅力」と話しました。



戦中、戦後の広島を舞台に、原爆被害者正面から描いた漫画『はだしのゲン』。昨年来、小中学校の図書室に置かれず、閲覧を制限しようとする動きが続いています。集英社が『はだしのゲン』の権利を買い取り、関係者を撤去し、閲覧を制限しようとする動きが続いています。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。

「今の子はテレビゲームで簡単に人を殺してしまう環境で育っている。本がリアルに描かれるゲンは貴重な『教科書』です」(堀理砂さん)。

「核戦争を防止する石川医師の会」は二〇一二年から毎年、県内の小中学校にゲンを読ませ、四年前で計五八校になりました。

同会代表は城北病院(石川市民医連)の白崎良明医師。「幅広い国民がゲンを支持するからこそ、戦争を止むための努力は都度の悪いものを隠そうとする。閲覧制限を撤回する運動を願う私たちの役割」と言います。

白崎さんは健忘クリニックの所長時代、職場に「九条の会をつくり、内科と小児科の待合室に全巻を揃えました。ゲンは核兵器廃絶の絶好の教材である」として、子どもたちが生きる力を身につけることができると手本です。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。



ゲンのロシア語版を手にする浅妻さん

はだしのゲンをひろめる会 普及のため募金や会員を募集。問い合わせは理事長の浅妻さん TEL.076-242-6559 http://hadashingen.jp/



ゲンと白崎医師。健生クリニック待合室にある9条コーナーで

「再び仕組みも詳細に描かれます。『再び戦争に向かう』とする時代。子ども時代に目にした経験も、あらためて読んでみてほしい。きっと新たな発見があります」と呼びかけます。

「世界にははだしのゲン」 同会とゲンの翻訳、普及グループ「プロジェクト・ゲン」、石川県生協連の有志が二〇一三年五月、NPO法人「はだしのゲンをひろめる会」を設立しました。

「はだしのゲン」(以下ゲン)の内容は知らなくても、目にした人は多いはず。小中学校の図書室に置かれていない数少ない漫画だからです。東京都千代田区の小学校教師、堀理砂さんは「いつも貸し出し中になっています」と言います。